

平成 3 1 年

第 1 回 定例市議会

所 信 表 明
施 政 方 針

阿 久 根 市

所信表明・施政方針

平成31年第1回阿久根市議会定例会の開会に当たり、議会並びに市民の皆様へ、市政に対する私の所信を申し述べ、御理解と御協力を賜りたいと存じます。

私は、昨年12月23日に行われた阿久根市長選挙において、市民の皆様からの力強い御支援と御支持を賜り、第20代阿久根市長に就任いたしました。市政への信託を厳粛に受け止めながら、市政の舵取りを担う重責を改めて感じております。

私は、1期目においては、市民の皆様方との対話を通じて、「市政の安定」に取り組み、2期目では、引き続き市政への信頼の回復に努めながら、このまちの将来に寄せる市民の皆様方の思いを真摯に受け止め、「笑顔あふれる夢のまちづくり」に取り組んできたところであります。

そして、今、3期目のスタートに当たり、これまでの地道な取組により芽吹いたまちづくりの「芽」を大切に育て、花を咲かせ、大きな実を結ぶために、平成からその先へつなぐ「まちづくりへの思い」を新たにしているところであります。

さて、平成の時代を振り返りますと、バブル経済崩壊後の長期的な低迷が続く中、経済のグローバル化やIT化の進展によ

り、経済構造も大きく変化いたしました。また、国による地方分権の推進や平成の大合併など、地方自治体を取り巻く環境も、大きな転換を迎えた時代でもありました。

さらに、自然災害も数多く発生し、なかでも平成7年の阪神・淡路大震災、平成23年の東日本大震災は、想定をはるかに超えるものであり、とりわけ、東日本大震災では、福島原子力発電所の被災により、今なお多くの住民の方が避難生活を余儀なくされております。最近においても熊本地震、九州北部豪雨等が発生しておりますが、防災対策の充実はもとより、「人と人とのつながり」の重要性についても大きな教訓を残しております。

一方、九州新幹線の全線開通、南九州西回り自動車道の整備による交通アクセスの向上等により、人的・物的な交流が促進され、観光振興等に大きな経済効果がもたらされるとともに、地域社会のグローバル化は拡大してきております。

阿久根市では、平成元年には現在の出水郡医師会広域医療センターが発足し、平成6年には総合体育館の竣工、平成14年には番所丘公園の全面的な開園など、施設整備が進められた時期でもありました。

社会や経済が大きく変動する平成の時代にあって、これまで、本市では、合併によらない単独自治体として、不断に事務事業

の見直しを行い、健全財政を維持し、市民福祉の向上のための取組がなされてきたところであります。日本全体が時代の転換期を迎える中、阿久根市政発展のために我が身を惜しまず御尽力いただいた市民の皆様をはじめ、関係の方々に、改めて深く敬意を表する次第であります。

このような中、私は、今回の選挙を通じて、市民の皆様に対し、今後取り組む重点施策を訴えてまいりました。それらの根幹にあるのは、「まちづくりはひとづくりから」との基本理念であります。

時代がかつてない速さで進展し、人々の価値観が多様化する中であって、今、様々な分野で活躍されている方々の英知を出し合い連携しながら、地域の課題解決に取り組む「協働によるまちづくり」が求められております。「ふるさと阿久根」を未来につないでいくため、私は、様々な分野で「ひとづくり」に力を注ぎ、多種多能な「人財」を育て、平成からその次の時代に向け、全力を尽くしてまいります所存であります。

この基本的な考えに基づいて、本市の直面する課題や市政の各分野における重点施策等について申し上げたいと存じます。

はじめに、昨年11月、市民交流センター「風テラスあくね」が完成いたしました。これまで、各種のイベント等が行われておりますが、多くの方々に愛着を持って広く利用していた

だきたいと考えております。

また、本市を舞台に制作された映画「かぞくいろ」は、昨年11月から公開され、映像を通じて阿久根市の魅力が全国に広まったところでもあります。その情報発信効果を更に高めていくため、各種取組を通じて交流人口の拡大を図るほか、映画やテレビ等の誘致を行うフィルムコミッションを市役所内に設置いたしました。映画の主なロケ地となった大川地区には、ロケ地を巡る観光客が多く訪れ、また、3月末からは、台湾での同映画の公開も決定されております。この機会に本市のプロモーションを行い、台湾や外国からのお客様に来ていただける仕組みづくりを進めてまいります。さらに、訪日観光客のインバウンド消費等に対応するため、市内事業所のクレジットカード等による電子決済環境の整備費用について補助を行い、普及を進めます。

旧国民宿舎の跡地活用につきましては、昨年11月に、HKR Japan株式会社と締結した観光開発の可能性調査等に関する連携協定に基づく取組を進め、市民、議会及び市内の関係団体とも認識を共有しつつ、将来にわたる観光開発の可能性に関する検討・調査に引き続き取り組んでまいります。

また、旧阿久根高校跡地につきましては、建物の劣化状況調査等の結果を踏まえ、市民の皆様の御意見をいただきながら、

旧国民宿舎の跡地活用との整合性を図りつつ、地域の振興に資する活用策について検討を進めてまいります。

南九州西回り自動車道の整備に伴う「サンセット牛之浜景勝地」の道の駅につきましては、新たに薩摩川内市及び長島町の行政・議会・経済団体も参画した整備促進協議会において、国や県への要望活動等を展開しているところであります。現在、全体構想計画の策定を進めておりますが、本計画策定後は、課題を整理し、関係機関との協議を重ね、基本計画の策定に向けて取組を進めてまいります。

寺島宗則旧家保存活用プロジェクトにつきましては、現在、旧家の改修を進めておりますが、企業版ふるさと納税だけでなく、一般のふるさと納税等も財源とし、併せて各種事業の活用も検討しながら効率的な事業実施に努め、本市に残る貴重な歴史的施設として、また、観光や教育の拠点として整備を図ってまいります。

市長と語る会につきましては、去年は各区を対象に開催してまいりましたが、平成31年度は各種団体等と意見交換を行い、施策に生かしてまいりたいと考えております。

次に、本市の振興・発展のための主要なプロジェクト等について申し上げます。

南九州西回り自動車道は、阿久根川内道路、「阿久根インタ

一チェンジ」～「（仮称）西目インターチェンジ」間が、昨年10月に着工され、用地取得等も並行して進められています。また、「（仮称）西目インターチェンジ」～「（仮称）大川インターチェンジ」間では調査設計業務が引き続き行われており、今後においても、国や県、関係自治体等と連携し、早期の全線開通を目指してまいります。

北薩横断道路は、さつま町泊野の「さつま泊野インターチェンジ」から「きららインターチェンジ」までの4.2キロメートルが3月24日に供用開始されます。また、阿久根高尾野道路区間の約9キロメートルにおいては、用地調査と測量設計が進められており、早期開通に向け、県及び北薩空港幹線道路整備促進期成会と連携して取り組んでまいります。

次に、平成31年度予算の概要について申し上げます。

国においては、一人ひとりの人材の質を高める「人づくり革命」と、成長戦略の核となる「生産性革命」に最優先で取り組み、地方創生、国土強靱化、女性の活躍や働き方改革などの施策の推進により、一億総活躍社会の実現を目指すという考え方にに基づき、平成31年度予算が編成されたところであります。

このことを踏まえつつ、平成31年度の本市の予算においては、これまでの事業内容を大胆に見直し、真に効果の期待できる取組を推進し、着実に成果を伴いながら「ひとづくり元年」

となることを目指し編成いたしました。

以下、「まちづくりはひとづくりから」の基本理念に基づいて「ふるさと阿久根を次の世代につなぐため」に編成いたしました歳出予算の各分野における重点項目について申し上げます。

第1は、「安全・安心への取組」であります。

各区に設置されている防犯灯のLED化の推進や給水車の整備をはじめとする災害等の備蓄備品の充実を図るとともに、引き続き、市の防災行政無線や各区の広報用放送施設のデジタル化を推進します。また、橋りょうや学校施設をはじめとする市の公共施設の長寿命化を進めます。

第2は、「子育てや高齢者支援等の福祉の充実」であります。

「乗合タクシー」や「高齢者等福祉タクシー」の活用促進を図り、高齢者等の外出支援や見守り体制を整備するとともに、介護予防活動の拡充を図ります。また、18歳までの子どもの医療費無償化による子育て世代の負担軽減を引き続き図るなど、子育て世代を支援してまいります。

第3は、「販路拡大、後継者育成による産業振興」であります。

阿久根市で生産された農林水産物等の販路拡大のため、商談会や物産展等への出展支援を継続し、新たに新商品開発に意欲的な事業者に対する補助を実施します。農業・漁業においては、

国の事業や市独自の壮年世代新規就農者支援給付金事業等の活用による後継者の一層の掘り起こしを行い，後継者の育成・確保に努めます。また，地元雇用を促進するため，鶴翔高校生等を対象に，市内企業の合同説明会を新たに開催します。

第4は，「地域コミュニティの推進，観光・交流の促進」であります。

これまでの地域づくり活動支援事業や市道清掃活動に対する謝金制度を見直し，コミュニティ活動の一層の活性化を促進します。また，映画「かぞくいろ」の上映を契機とした観光客増への対応や台湾との国際交流事業，寺島宗則旧家保存活用プロジェクトを推進します。

第5は，子供たちの学習環境の充実や奨学金制度の拡充による「教育の推進」であります。

小・中学校におけるICT機器の整備や，エアコンの設置等による教育環境の向上を図り，また，新たに医師等を目指す学生に対する独自の奨学金制度を創設します。

第6は，「文化，スポーツの推進」であります。

市民交流センターを中心に，文化・芸術活動の充実を進めるとともに，2020年開催の国民体育大会に向けた取組を進めてまいります。

第7は，生ごみ堆肥化，再生可能エネルギーの活用促進によ

る「環境の保全」であります。

生ごみ堆肥化事業の拡充による一層のごみ減量化と資源の循環を図ります。また、再生可能エネルギー導入事業の推進、小型合併処理浄化槽の整備に対する支援等を通じた適切な環境の保全と生活環境の向上に努めます。

第8は、「人材の活用や行財政改革の推進等」であります。

国への研修派遣、県との人事交流の継続や、職員の資質向上に向けた研修の充実・強化等による人材育成を図り、豊かな郷土を確実に将来に引き継ぐための行政運営を目指してまいります。

一方、歳入面におきましては、市税の大幅な伸びが期待できない中で、地方交付税の減少も想定されるなど厳しい状況が予想されることから、引き続き国・県の補助金等や有利な地方債等を活用するとともに、自主財源の確保に努めながら、効率的な財政運営を図っていくこととしております。

このようにして編成いたしました平成31年度一般会計予算は、前年度対比、2.5パーセント減の119億6,000万円となり、特別会計を合わせますと188億778万2,000円で、前年度対比2.1パーセントの減となりました。

なお、水道事業会計予算は、収益的支出3億4,452万5,000円、資本的支出3億2,513万7,000円でありま

す。

次に、市政の各分野における具体的な課題や施策等について申し上げます。

はじめに、まちづくりに関する事業であります。

まちづくりの指針である第5次総合計画や「笑顔あふれる阿久根市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン及び総合戦略」の計画期間が平成31年度で終了いたしますが、社会環境の変化に柔軟に対応する新たな構想・ビジョンを描いてまいります。

また、地元の人材を新規雇用した市内企業に対して支援し、若い人材の市外への流失抑制と地域の活性化を図るための制度設計を進めるとともに、各種分野で活躍されているアクネ大使等による子供たちの学習の機会を設け、生きた知識の習得を通じた人材の育成も図ってまいります。

さらに、国体の開催や外国からの旅行客による交流人口の増加を想定し、宿泊施設を整備する事業者を支援いたします。

課題となっている空き家の有効活用では、昨年10月に空き家バンクを制度化いたしました。情報の収集及び提供を通じた効果的な運用を図るとともに、リフォーム等に対する空き家改修補助を行ってまいります。

国際交流では、昨年4月に友好交流協定を締結した台湾台南市善化区と観光や産業等の分野において交流の促進を図り、地

元特産品の流通の可能性を検討するとともに、善化区からの高校生を受け入れる青少年交流事業を実施してまいります。

地域の公益的な活動については、新たに「地域色（ちいきいろ）づくり事業」として、地域コミュニティの活性化につながる取組を支援するとともに、健康づくりや防災活動についての評価指標を設け、これらの活動を促してまいりたいと考えております。

移住定住につきましては、各種補助制度の有効活用を通じて、促進に努めてまいります。

次に、福祉、健康及び医療について申し上げます。

誰もが住み慣れた地域で心豊かに安心して暮らすことができるよう、「自助」、「共助」、「公助」による地域福祉を推進してまいります。

児童福祉につきましては、引き続き、子ども医療費の助成を行い、子育ての不安感や負担感を軽減し、安心して子育てができる環境づくりを更に進めてまいります。

また、平成32年度からの「第2期子ども・子育て支援事業計画」の実施に備え、子育て世帯の実態調査を実施し、課題を明らかにしながら、新たな児童福祉施策を検討してまいります。

障がい福祉につきましては、基本理念である「障がい者の自立と、共に生き支え合うまちづくり」に向けた障がい福祉施策

を，総合的かつ計画的に進めてまいります。また，新たに，障がい者等が自立した生活を営むことができるよう，その家族や地域住民等により構成された地域における自発的な取組を行う団体を支援してまいります。

子ども発達支援センターこじかについては，平成31年度から指定管理者制度を導入し，これまで以上に地域の中核的な療育支援施設として充実を図ってまいります。

生活保護につきましては，必要な方々に確実に保護を実施するという基本的な考え方を維持しつつ，就労による自立の促進や医療扶助の適正化等に努めてまいります。また，生活保護に至らない生活困窮者に対して状況に応じた相談支援を実施し，困窮状態の解消を目指すとともに，生活困窮世帯の子供たちへの学習支援事業を引き続き実施してまいります。

次に，市民の健康づくりにつきましては，「あくね元気プラン」に基づき，引き続き健康寿命の延伸や生活の質の向上を目標に取組を進めるとともに，同プランの平成32年度の一部改訂に向け，市民の意識調査及び調査結果の分析を進めてまいります。

また，特定健診や長寿健診，その他各種検診の受診率向上を図るとともに，保健指導やかかりつけ医への受診勧奨を行い，生活習慣病等の予防の取組を積極的に進めてまいります。

自殺予防対策事業につきましては、「阿久根市いのち支える自殺対策計画」を策定し、「生きることの包括的な支援」のため、自殺予防を目的とした相談員の養成など、人づくり、体制づくりを進めてまいります。

母子保健事業につきましては、妊娠・出産・子育てについて専任保健師による「子育て支援コンシェルジュ事業」を引き続き実施するとともに、妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援を行う「子育て世代包括支援センター」の設置に向け取り組んでまいります。

予防接種事業につきましては、引き続き、定期予防接種を実施し、感染症予防対策を強化するとともに、現在、国が進めている「風しん対策」については、国、県及び関係機関との連携を図り、39歳から56歳までの男性への抗体検査や定期接種の勧奨に取り組んでまいります。

国民健康保険につきましては、財政運営の責任主体が県へ移行し、市町村が担う事務の広域化や効率化に関する運営方針が定められました。この運営方針に基づき、特定健診による疾病の早期発見等を促し、訪問指導による糖尿病重症化予防やジェネリック医薬品の使用促進などを通じて医療費の適正化を図り、国保財政の健全化に向け計画的に取り組んでまいります。

高齢者福祉につきましては、引き続き、県の「高齢者元気度

アップ地域活性化事業」等に取り組み、地域の活力向上のための社会参加を促し、健康づくりの充実や生きがいづくりを推進してまいります。

介護保険につきましては、「阿久根市第7期高齢者保健福祉計画」に基づき、地域包括ケアシステムの深化・推進に取り組み、高齢者が住み慣れた地域で安心して自分らしい生活を続けられるよう、関係機関と連携しながら、各種サービスの安定的な運用に努めてまいります。

また、地域の実情に応じたサービス体制づくりの検討や認知症初期集中支援チーム等による認知症への支援体制の充実・強化に取り組んでまいります。

さらに、一般介護予防事業では、地域のころばん体操教室へリハビリテーション専門職等の派遣を行い、教室の継続を支援するとともに、同教室の普及・拡大にも引き続き取り組んでまいります。

大川診療所につきましては、地域医療に係る地域住民のニーズ、人口減少など地域の現状を踏まえながら、診療委託先の医療機関と協力・連携を図り運営してまいります。

次に、環境衛生について申し上げます。

「自然と共生し快適で住みよいまち」を基本理念に、衛生自治会をはじめとする各種団体と協力して、ごみの排出抑制、再

利用，再資源化の取組を強化してまいります。

本市におけるごみの排出量は，ここ数年減少傾向にありますが，引き続き，「生ごみ堆肥化事業」の充実を図り，一層の減量化と資源の循環を図ってまいります。

また，海岸の環境を守るため，「海岸漂着物等地域対策推進事業」を継続するとともに，小型合併処理浄化槽の整備支援等を通じて公共用水域の保全と生活環境の向上を図ります。

さらに，現在，北薩広域行政事務組合が進めているごみ焼却処分場の整備につきましては，平成32年度の完成に向け，同組合と連携し事業推進に努めてまいります。

次に，産業について申し上げます。

本市の重要な基幹産業である農業の振興につきましては，持続可能で収益性のある農業の推進を基本とし，新規就農者や後継者に対する積極的な支援や，安全・安心な農畜産物の生産拡大と農家所得の向上に取り組んでまいります。

特に，喫緊の課題であります農業後継者や新規就農者の確保につきましては，国の農業次世代人材投資事業や市独自の事業などについて，関係機関と連携を図り推進してまいります。

農産園芸の振興につきましては，加工用米などの戦略作物の作付けを支援するなど，主食用米からの転換による水田フル活用を推進するとともに，施設園芸や果樹生産の支援を継続しな

がら、産地拡大に向けた取組を強化してまいります。

畜産につきましては、家畜伝染病に関する情報収集及び畜産農家への情報提供に努め、発生防止に向けた防疫意識の向上を図ります。また、畜産クラスター事業等の各種事業を活用し畜産農家の所得向上に取り組んでまいります。

農業生産基盤の整備につきましては、中山間地域等直接支払制度や多面的機能支払交付金事業等を活用し、農業用施設等の適正な保全管理と長寿命化の推進に努めます。また、県営中山間地域総合整備事業阿久根南部地区での事業実施や、阿久根北部農村地域防災減災事業等の採択に向けた取組を進め、より有利な事業を活用し、地域の要望に沿った整備を図ってまいります。

また、農業委員会につきましては、農地の権利移動の許可や利用調整等の適正な執行等に努めるとともに、遊休農地の発生防止・解消、新規参入の促進といった農地利用の最適化を進めてまいります。

林業振興につきましては、近年、東南アジアへの木材輸出の増加等から、本市の林業における雇用創出や関連産業への効果が期待されておりますが、市森林整備計画に基づき、森林の整備を推進するとともに、市有林の一部の経営を林業事業体に委託して適正な利用間伐を進めてまいります。

さらに、タケノコの産地化のため、竹林改良促進事業などに取り組むとともに、引き続き、竹林の貸し手・借り手に対する支援を行い、放置竹林の解消に努めてまいります。

有害鳥獣対策につきましては、有害鳥獣捕獲が適正かつ効果的に実施されるよう、補助金等の見直しを行ってきたところですが、引き続き事業の適正な実施に努めながら、農林産物の被害軽減のため捕獲体制の充実を図り、捕獲者の後継者育成等を支援してまいります。

水産業につきましては、いかしば設置などによる漁場の管理、魚価の安定に向けた「鮮度保持対策事業」のほか、漁業体験等を通じた地域間交流の促進や、漁業後継者への就業支援を引き続き実施してまいります。

また、水産物付加価値向上対策として、新商品開発、商談会出展への支援、高度衛生対応型市場による「安全・安心な水産物」の情報発信等魚価の向上を図る取組も進めてまいります。

商工業につきましては、地域経済の活性化のため、あくね応援寄附金特産品返礼事業での返礼品を拡充してPR活動に努め、地元産品の更なる活用を進めてまいります。

創業支援については、商工会議所、金融機関と連携して支援に努めます。

観光につきましては、観光まちづくり戦略に基づき、「食の

まち阿久根」の取組を進めるとともに、市内事業所のキャッシュレス化や外国語対応の推進にも努めてまいります。また、映画「かぞくいろ」の上映を契機として、肥薩おれんじ鉄道との観光面での連携を強め、「おれんじ食堂」の停車時間に合わせたマルシェや体験メニューによる阿久根駅の活用を進めます。

次に、土木について申し上げます。

国の交付金を活用した社会資本整備事業では、引き続き、道路改良事業を進めるとともに、老朽化した橋りょうを計画的に改修することとし、平成31年度は折口大辺志線の道路改良工事と橋りょう修繕工事や設計業務を進めてまいります。

公園の整備につきましては、長寿命化計画に基づき、老朽化している公園施設の改修を進め、地域住民の憩いの場である番所丘公園等をはじめとする公園施設の充実に努めるほか、あくねサンセットライン薩摩街道整備事業として、引き続き、頼山陽公園の整備を進めてまいります。

また、ふるさと景観整備事業により、国道3号沿線の樹木伐採を行い、名勝「牛之浜海岸」の景観確保に努めてまいります。

都市計画につきましては、南九州西回り自動車道阿久根北インターチェンジ周辺及び国道389号を中心とした脇本地区の一部を都市計画区域へ編入するとともに、既存の都市計画区域を道路や河川などの地形地物の境界線に変更する手続を進めて

まいります。併せて、建築形態規制や「阿久根市都市計画マスタープラン」などの見直しも行ってまいります。

市営住宅につきましては、公営住宅等長寿命化計画に基づき、耐用年数を超過した木造住宅の解体や、子育てに配慮した住環境の整備を行うなど、計画的な維持管理を進めます。

さらに、民間住宅の防災対策として、危険空き家等解体撤去事業やがけ地近接等危険住宅移転事業を推進します。

次に、防災及び消防について申し上げます。

昨年7月に、西日本を中心に記録的な大雨をもたらした豪雨では、各地で河川の氾濫、浸水害、土砂災害等が発生し、多くの尊い命が失われております。

地震や風水害等の大規模災害に備えるため、災害備蓄について、更に充実を図るとともに、給水車の整備についても進めてまいります。

防災の基本は、「自助」、「共助」、「公助」であり、市民の防災意識の向上を図るための取組を進めるとともに、地域における防災組織の強化など「安全・安心」に向けた防災体制の整備に努めてまいります。また、災害等緊急時はもとより、日常の市政情報等の伝達に不可欠な防災行政無線について、デジタル化の整備を引き続き行い、機能の充実を図ってまいります。

さらに、原子力防災につきましては、避難計画等の周知に努

め、県及び関係機関との連携を更に密にして計画の実効性を高めるとともに、避難時等に使用するバスの整備を進めます。

消防では、各種災害に適応した消防体制の充実と、迅速で的確な消防活動の対応が求められております。そのため、防災力の一層の強化に向け、車両や資機材の計画的な整備・更新を進めるとともに、消防団員の安全確保のための装備の改善・充実に努めるほか、現場活動に重点を置いた訓練・教育の充実に努めます。

また、消防組合、消防団等と連携し、応急手当の普及啓発を行い、救命率のさらなる向上に取り組んでまいります。

次に、教育について申し上げます。

教育行政につきましては、阿久根市教育大綱に基づき、「郷土の教育的伝統や風土を生かした全人教育・生涯教育の推進に努める」ことを基本目標とし、各施策に取り組んでまいります。

また、医師を目指す学生や、外国の大学等への留学を希望する学生への奨学金制度を新たに創設し、本市の将来の発展に資するひとづくりの取組を推進してまいります。

各小・中学校においては、少子化等により小規模化が進行していることから、保護者や地域の方々と意見交換を行うとともに、学校規模適正化協議会において、児童生徒の教育環境や学校の在り方について検討してまいります。

なお、平成31年度末で閉校となる大川中学校につきましては、阿久根中学校との円滑な統合に向けて準備を進めてまいります。

学校施設につきましては、普通教室等への空調設備、情報通信機器の整備を進めるとともに、老朽化した施設の改善に努めてまいります。

学校教育につきましては、道徳心を養い、豊かな心と健やかな体を育む教育の推進とともに、基礎学力の確実な定着を図るため、学力向上に向けた教職員の授業力向上や家庭との連携、「特別の教科 道徳」の充実を中心とした豊かな心の育成等に努めてまいります。

また、「阿久根のよさを理解し、実感できるプログラム」として、キャリア教育の充実と努めるとともに、総合的な学習の時間を中心とした探究的・協働的な学習、阿久根の地域素材を生かした特色ある教育活動の充実を図り、地元の自然や産業、歴史、文化等を理解し、地域を愛する子供たちの育成に取り組んでまいります。

さらに、ICT機器を活用した情報活用能力やプログラミング的思考の育成を図るために、ICT環境の整備、教員の指導力向上に努めます。

生涯学習につきましては、生涯学習推進体制の強化、学習機

会の拡充，読書活動の支援，青少年の健全育成等を重点施策に掲げ，市民一人ひとりが生涯にわたって学び続け，その成果が適切に発揮されるよう，活力ある地域づくりに取り組んでまいります。

また，新たな図書館につきましては，今後，財源状況を踏まえながら，整備について検討してまいります。

文化の振興につきましては，市民交流センターを核として，市民の文化・芸術活動の普及と向上に努め，本市の貴重な財産である郷土芸能や文化財の保存・活用を図り，文化の薫り高いまちづくりを推進してまいります。

スポーツの推進につきましては，生涯にわたる健康づくり，体力及び競技力の向上を目指し，スポーツ・レクリエーションの奨励と普及に努め，スポーツを通じた交流人口の拡大を図るため，各種スポーツ大会やイベントの開催，合宿の誘致等に取り組んでまいります。

また，2020年に開催される「燃ゆる感動かごしま国体」に向けた準備を進めるとともに，国体のリハーサル大会となる全日本ボクシング選手権大会を開催してまいります。

学校給食センターにつきましては，「安心・安全で栄養豊かなバランスのとれたおいしい学校給食」を提供することを基本として，食の安全確保に取り組むとともに，地元産の食材を活

用した地産地消を一層推進してまいります。

次に、水道について申し上げます。

日常生活に欠かせない安全な水道水を安定的に供給するという使命のもと、市民生活の根幹をなすライフラインの確保のため、効率的な管理と健全経営に努めてまいります。

上水道事業では、6次拡張事業の完了により、水道施設の安全管理体制は整いましたが、引き続き、災害に強い水道施設を目指し、老朽管の耐震化への更新や桜ヶ丘配水池の増設を行い、安定供給の基盤強化に努めてまいります。

簡易水道事業につきましては、上水道事業との統合による水道事業の一元化を進めるため、中部地区の整備を進めてまいります。

以上、市政の推進についての所信及び施政の方針を申し上げましたが、平成31年度は、平成の時代を振り返り、新たな時代を展望する大きな節目の年でもあります。

これまで、2期8年の間には、多くの困難や試練があり、また、厳しい御意見もいただいてまいりましたが、私はそのたびに、議員や市民の皆様方と真摯に向き合い、率直な意見交換、議論を通じて、その解決に取り組んでまいりました。この姿勢は、今後も決して変わることはありません。

押し寄せる時代の波は、ますます大きくなり、その速さを

増していくものと思われまふ。その波に流されることなく、私
たちは、しっかりとこの地に根を張り、豊かな郷土を次の世代
に引き継いでいかなければなりません。

私は、この思いを胸に強く抱きながら、ふるさと阿久根に生
きる人々の、

「心を紡ぎ」

「絆を紡ぎ」

「夢を紡いで」

輝く未来へのまちづくりを強力に進めてまいります。

そして、平成からその先へつなぐ阿久根市のリーダーとして、
「不屈不撓」の強い意志、「信念」と「勇氣」、
「情熱」を持って、「ふるさと阿久根」の発展のために全力を尽くす覚悟で
ございます。

市議会をはじめ、市民の皆様方の一層の御理解と御協力をお
願い申し上げ、私の所信及び施政方針の表明とさせていただきます。

